

# 中村信彦市議会レポート

謹賀新年

第72号



一般会計決算特別委員会での書類審査の様子

新年明けましておめでとうございます。

さて、昨年を振り返ると2013年オリンピックの東京招致などの明るい話題もありましたが、一方各地で多発した自然災害、まだまだ先が見えない被災地の復興と福島原発の事故処理など暗い話題も多くありました。とりわけ国政では政権に復帰した自民党安倍政権が夏の参議院選挙でも勝利し、その圧倒的な議席数で、十分な審議も尽くさずそのまま特定秘密保護法案を強行採決しました。当分国政選挙がないことで、このような強引な国会運営が行われていること、各方面から厳しい声が出されています。また今年は、四月から消費税が8%になります。国民生活や経済への影響を緩和するための対策は必須です。しかし、与党は逆進性対策を先送りし、自動車の実質増税や一部黒字法人だけ復興増税を廃止するといった方針を打ち出しています。私は少子高齢化社会が進む中で、これからの社会で何が必要なのか、政治はどういう役割を果たすのか、しっかりと取り組んでまいります。

さて、茨木市では立命館大学の開学に向けた駅周辺整備や、安威川ダム、新名神、彩都等の整備事業も順調に進められています。また昨年は、国内初となる文化歴史姉妹都市提携を大分県竹田市と締結いたしました。文化と歴史の魅力、そして若者の元気が活かされるまちづくり、今年も全力で取り組んでまいります。変わらぬご指導・ご鞭撻を宜しくお願いします。

茨木市議会議員

中村信彦

# 子ども育成支援会議条例可決

## 九月市議会

九月・十二月市議会における中村信彦の質問の概要をご報告します。  
 (紙面の関係上、各質疑内容については、茨木市議会ホームページの会議録や動画では非ご覧ください)

九月議会は九月五日から二六日まで開催されました。主な議案は茨木市子ども育成支援会議条例の制定について、茨木市待機児童保育室条例の制定についてJR茨木駅東口駅前広場整備工事、下穂積保育所、鮎川保育所の民営化について、二十四年度の各予算についての決算認定などです。

中村は、本会議では、①竹田市との姉妹都市提携について、②太陽光発電の活用について、③地域コミュニティの活性化について、④歴史文化を活用した街づくりについて質疑しました。

## 十二月市議会

また、民生常任委員会においては、①子ども支援会議について、②〇歳から一八歳までの切れ目のない支援について、③生活保護世帯への自立支援・就労訓練の取り組みについて、④障害者の就労支援について、⑤老人福祉センターの入浴施設の廃止について、⑥認知症対策について、⑦大規模災害時の高齢者・障害者等の安否確認についてなど質疑しました。

十二月市議会は六日から一七日まで開かれました。茨木市待機児童保育室条例の一部改正について、茨木市市民会館、茨木市福祉文化会館、茨木市立市民体育館等の指定管理者の指定について、JR茨木駅東口駅前広場デッキ上部工事請負について、一般会計補正予算についてなどです。

# 子ども子育て支援法に基づくこれからの施策は

民生常任委員会では、①子ども育成支援会議について、すでに二回開かれており、また保育のニーズ把握のためのアンケート調査も行われる、取り組みの内容と今後のスケジュールについて質問。②子ども子育て支援新制度に移行した場合の保育の必要性の認定について、国の

計では事由×保育必要量×優先利用となっているが本市の考えを問う。  
 ③学童保育について、全国では十八時以降の延長保育を実施しているところが六十二・四%、本市でも検討するべきではないか。  
 ④未婚の一人親家庭に対する「みなし寡婦控除」について考えを問う。  
 ⑤スマイルオフィースの取り組みと今後の障害者雇用対策について問う。  
 ⑥障害者福祉サービス計画の策定状況について  
 ⑦認知症対策・オレンジプランについて  
 ⑧老人福祉センターの入浴施設の廃止についてなど市の考えを問いました。

# 竹田市と茨木市が全国で初めて文化歴史姉妹友好都市の提携を議決

昨年、竹田市の岡城城下町四百年祭において、茨木市と竹田市が文化歴史パートナーシップ宣言を取り交わして以来、様々な準備を進めてきました。その結果、九月市議会で正式に両市間で文化歴史姉妹都市提携を結ぶことを議決し、11月16日に本市で正式に姉妹都市の調印式を開くことができました。今回のような「文化歴史」という事をうたった姉妹都市提携は全国でも初めてとなります。茨木市と竹田市は、茨木城主中川清秀公の次男が岡藩の初代藩主であった事、両市とも隠れキリシタンゆかりの地であること、本市名誉市民である川端康成先生が、竹田市に逗留し小説を執筆され、竹田高校で生徒たちに講演されたなどのゆかりがあります。